



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞阪神版にイラストエッセイ「くるまいまする」を連載中。

伊丹俳壇 「歩」

最優秀賞
薫風や一歩踏み出す仁王尊
南北 佳昭 (伊丹市)

優秀賞
春休みキウイと一緒に歩きましょう
寺田 美咲 (伊丹市)

花吹雪歩幅広げて通り抜け
武 美恵子 (伊丹市)

つつがなく九十を歩む春の道
関子 利明 (伊丹市)

銭湯に歩いて五分朝桜
平 学 (東大阪市)

傘寿へとこのまま歩く豆の花
諸富 千歳 (伊丹市)

次回「伊丹俳壇」の兼題は「裸」。気軽に投句いただきたい。

次回から伊丹歌壇常設
前回は初めて短歌を募集したが、好評だったので、次回から「伊丹歌壇」として常設する。選者は尾崎まゆみさん(神戸市在住)。「玲瓏」選者。神戸新聞文芸短歌選者。現代歌人協会会員。尾崎さんは「心を形にしてみたい。そんなとき短歌は、あなたの

坪内稔典プロフィール
愛媛県出身。立命館大学卒。俳人、日本文学研究者。2010年、「モーロク俳句ますます盛ん俳句百年の遊び」で第13回原武夫文芸賞受賞。佛教大学名誉教授、京都教育大学名誉教授。柿衛文庫も雲軒塾頭。

英語註釈日和

summer (夏) という単語が使われている諺があります。One swallow does not make a summer. (直訳：1羽のツバメは、夏をつくらない)

自然な和訳では、「ツバメを1羽見たからといっても、夏はまだまだ先だ」とでもなるでしょうか。

三省堂の英語諺辞典によれば、この諺の初出時期は16世紀中期です。シェークスピアが生まれたのが、1564年ですから、そのころ、ツバメと夏とがワンセットで連想されていたのでしよう。ちなみに、シェークスピアは the Swan of Avon (エイボン川の白鳥) と呼ばれています。

さて、最新刊のジーニアス英和辞典第5版(大修館、2014年12月25日発行)をひいてみますと、「早合点して

はいけないという意味」という関連情報も出ています。次には、英英辞典の古典的名品 Idiomatic and Syntactic English Dictionary (開拓社、1942年4月20日初版、縮刷版1972年第114刷)の登場です。

It is not wise to make a judgement on the basis of a single instance. (直訳：1つだけの例を理由として判断することは賢くない)と、解説されています。つまり、「例がたった1つだけで、判断するなんてとんでもない」というように、上記の早合点のニュアンスが上手に表現されています。やはり英英辞典は、「お宝表現のことは蔵」ですネ。(濱昌央)

英語で「ことば」のおもしろさ体験しよう 「コトバーシティ」新開講

日本語から英語へ、英語から日本語へと双方向解説型英語講座「コトバーシティ英語読解講座」全7回を5月31日からことば蔵で開講します。

コトバーシティとは「ことば+ユニバーシティ(大学)」を掛け合わせた造語。「英語(楽)習」をコンセプトとし、

日本の名作の英語版などをテキストにしたユニークな講座です。講師は京都大学研究生の濱昌央さん=写真。時間割は以下のとおり。全て受講した人には修了証をプレゼント。定員各40人。いずれも無料。各回の申し込みはことば蔵へ。

2015年度時間割表 (開講時間は各回13時30分~15時)

開催日	テーマ
5月31日(日)	志賀直哉「城の崎にて」/英語版(マーク・ピーターセン訳)
7月26日(日)	「英和辞典と英英辞典の用例」解説和訳
8月15日(土)	「日本国憲法」英語版解説和訳(戦後70周年企画)
9月27日(日)	鴨長明「方丈記」/英語版(夏目漱石訳)
11月29日(日)	「マララさん(ノーベル平和賞受賞)の英語スピーチ」解説和訳
1月31日(日)	樋口一葉「たけくらべ」/英語版(E. G. サイデンステッカー訳)
3月27日(日)	未定(受講者のリクエストに応じて決定)



夏が来る♪

さあ、これから暑くなる。「冷酒」の季節になった。冷たい日本酒も、また格別だ。あえて冷酒と書いたが、いわゆる「冷や」と混同されている方も多いと聞く。清酒の冷やは、い

わゆる常温の酒のことである。冷やもうまいが、暑い季節は、冷蔵庫で冷やした冷酒が最高だ。

ちなみに、冷酒で飲むのに向いているのは、フレッシュさを味わいたい生酒や香りを楽しみたい大吟醸酒などと言われている。うまい酒は冷やしてもうまいと我は思うがどうだろう。そうだ、色々試してみればいいのだ。

▼酒のあて

また、伊丹に美味しい酒のあてが増えた。今年の2月に決勝大会が行われた「第3回A.T.E.E.1グランプリ」。今回は第1回でグランプリを受賞した「鮎 千寿」が栄冠を取り



戻した形になった。あては「練りに味噌寄せマヨ仕立て」。また、これが美味い! 運がよければ来店時に食べられるそうなので、ぜひ!

▼初めての街で♪(お礼)

清酒「菊正宗」のCMで使われていた「初めての街で」という歌のことを「七杯目」で書いたら、それを読んだ方から音源をいただいた。これは、また聴くだけで十分飲める。ある意味、これも酒のあてだ。ありがとう。ございませう!

(ときわ喜多)

ことば蔵 第1回 KTB28おすすすめ本総選挙

ことば蔵の「センター本」決まる

ことば蔵はこのほど、おすすすめ本ナンバーワンを来館者の投票で決定する「KTB28おすすすめ本総選挙」を開催した。読書離れが進む若者が「総選挙」を通して今まで読んだことのない新たな本と出会い、読書へのきっかけづくりをするのが狙いだ。

このイベントはアイドルグループの選抜メンバーを決めるファン投票にちなんで企画。自分のおすすすめ本(推し本)の推薦文を募集し、来館者がそれを見て読みたくなった本に投票し、「センター本(最優秀賞)」が決まる仕組みだ。兵庫、大阪、滋賀から応募があった28作品が総選挙立候補本としてことば蔵で掲示された。

センター本に選ばれたのは伊丹市の小学校教員、野崎孝子さん推薦の時代小説「とっぴんばらりの風太郎」(万城目学著/文藝春秋)。4月29日の表彰式で野崎さんは「この本の素晴らしい色んな人に伝えなかった。推薦文を通して、私の思いを共有して欲しい」と話した。

センター本に選ばれた推薦文の全文は以下のとおり。

一度読んで二度目読み直し、佳境にさしかかると、風太郎たちの別れが切なくて、悲しくて一行、一行ゆっくりと読み返し読み返し読み進まないように終わりに向かっている。忍者屋敷をお払い箱になった風太郎とそのまわりの人たち、黒弓、蟬左衛門、常世、百市、そして芥下。二〇才そこそこの若い忍者たちは、たった数年の、疾風怒濤のごとき大変化の世の中で人に命令され、殺されかけ、生かされ、そして自分の頭で考え心でとらえて生きていく。大坂城、方広寺、高台寺、参寧坂と歩くと、その堀の中、木の根本、草の下、土の中、そして坂道に大勢の人たちの血も涙も汗も骨ももれている。私が見たはずの場所、たった四百年ほど前に凄惨な出来事があり、それをねね様もひさご様も本阿弥光悦もどうい思いを持って生き、そして死んでいったのだろう。その延長線に私はいる。」